

東京電力は4日、福島第1原子力発電所1号機の原子炉建屋1階南東部の床を貫通する気体輸送用の配管周辺の隙間から湯気が上がっているのを、調査に入った米国製ロボット「パックボット」で確認、撮影したと発表した。

湯気が立ち上っている周辺の放射線量は、最高で毎時4000ミリシーベルトで、3月11日の事故発生後に測定された中では、最も高い数値だった。

(略)

1号機では、格納容器から汚染水の漏出が続いている。東電では、格納容器の下部にある「圧力抑制室」付近から漏れ出した、約50度の汚染水から湯気が発生、1階に噴き出していると見ており、「今後、継続して監視する」と話している。



1号機の原子炉建屋1階における湯気確認状態
(東電提供)

平成23年6月4日
東京電力株式会社

1号機 原子炉建屋内調査結果

